教王経の世界

教王経は、密教の教理を説いた、金剛頂経系の中期の経典。法身説を説き、大日如来を中心とする、曼荼羅の思想を説いている。

教王経の中心思想は、「自性清浄心」と、「菩提心」である。

（金剛界曼荼羅を基に、教王経の曼荼羅を作成したもの。）

教王経の中心思想は、「自性清浄心」と、「菩提心」である。

「自性清浄心」は、「自性」が、「清浄」であるという意味である。「自性」とは、「本来の性質」のことである。「清浄」とは、「汚れのない、清らかな」という意味である。

「菩提心」は、「菩提」とは、「悟り」のことである。「菩提心」とは、「悟りを求める心」のことである。

教王経では、「自性清浄心」と、「菩提心」とは、同じものであるとされている。

教王経では、「自性清浄心」と、「菩提心」とは、「大日如来」のことであるとされている。

「大日如来」とは、「宇宙の中心」であるとされている。

「大日如来」は、「宇宙の中心」であるとされているが、「大日如来」は、「宇宙の中心」であるとされているが、「大日如来」は、「宇宙の中心」であるとされている。